

寄贈資料展示 戦前の卒業アルバム

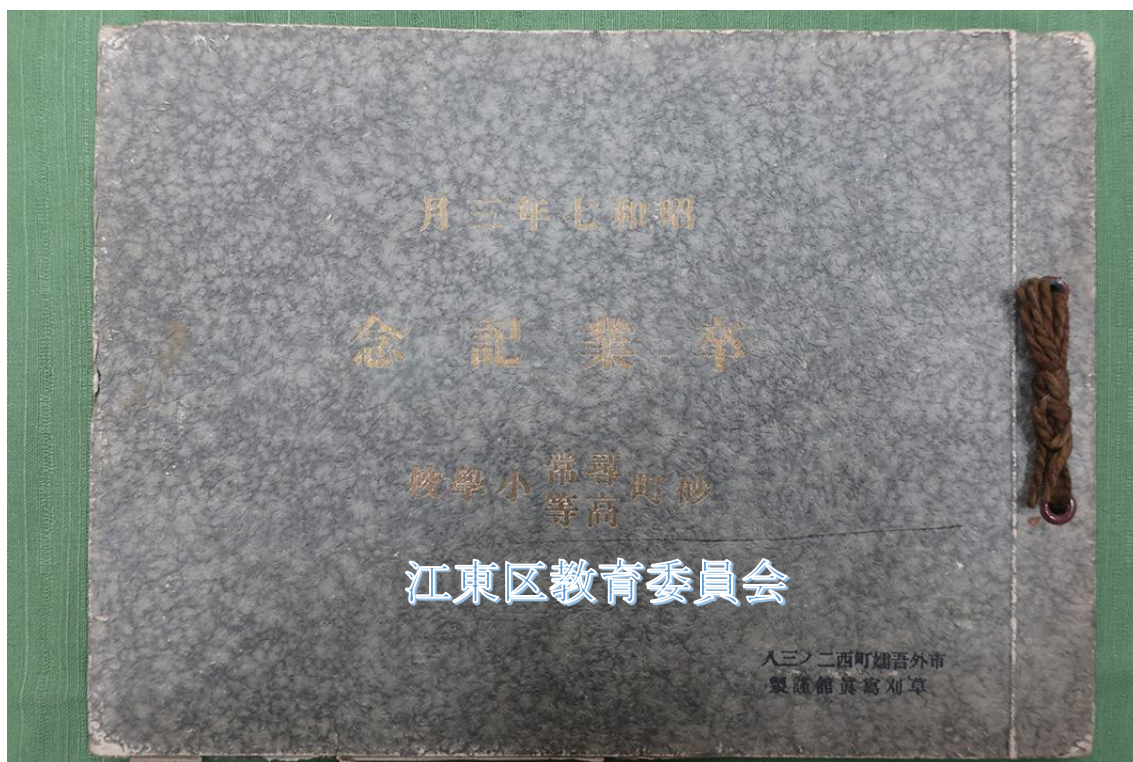
令和2年度は、コロナ禍で思うような学校生活がおくれない1年となりましたが、いよいよ卒業式を迎える季節となりました。区へ寄贈された資料の中には、戦前の卒業アルバムもあり、現在の卒業アルバムに近い構成となっています。今回はその一つを紹介します。

最後になりましたが、貴重な資料を寄贈していただいた方へ改めてお礼を申し上げます。

展示資料(卒業アルバム)について

今回展示しているのは、砂町尋常高等小学校の卒業アルバムです。アルバムは、各学級・教職員・学務委員(小学校長や地域の名士から選ばれた教育事務に関する市町村長の補助機関)の集合写真、運動会や遠足(江ノ島)の記念写真などで構成されています。こうした学校の卒業アルバムは、既に明治時代には確認されます。

展示箇所には宇田川啓輔砂町町長・水谷馨校長の肖像、校庭に整列する児童たち、その背景に校舎が写っています。大正14年(1925)に増築された校舎は、43の教室(理科室などの特別教室を含む)があり、その内裁縫室は60畳敷きと大規模な学校でした。しかし、残念ながらこの校舎は昭和20年3月10日の東京大空襲で全焼しました。



砂町尋常高等小学校卒業アルバム・表紙(昭和7年3月)



砂町尋常高等小学校卒業アルバム(昭和7年3月) :
校舎・水谷馨校長(右上)・宇田川啓輔砂町町長(左上)



砂町尋常高等小学校卒業アルバム(昭和7年3月)・6年1組集合写真

砂町小学校について

砂町小学校は、明治 24 年(1891)11 月に開校した、砂町地区で最も歴史ある学校です。開校当時は、村制であったため学校名は「砂村尋常小学校」となりました。その後、明治 34 年に高等科(二年制)が設置され、次いで大正 10 年(1921)に町制が施行されたため砂町尋常高等小学校と改称されました。

さらに昭和に入ってから、砂町地区に工場が進出するに伴い、人口が増加し、砂町地区に新しい小学校が創立され、職員・児童が分離しました。それでも昭和 5 年 4 月(1930)の時点で尋常科・高等科合わせて 3623 名という砂町地区では一番児童数が多い小学校でした。

尚、令和 3 年 11 月に砂町小学校は開校 130 周年を迎えます。

昭和 7 年当時の初等教育について

展示資料には「砂町尋常高等小学校」と記されています。昭和 7 年(1932)当時、初等教育の機関は現在と同じ小学校でしたが、尋常小学校と高等小学校の二種類がありました(明治 41 年～昭和 15 年)。その内尋常小学校は義務教育六年制、高等小学校は二年制を原則としました。

高等小学校は義務教育ではなく、授業料を必要としました。尋常小学校の卒業生の内、中学校への進学者(昭和 11 年で 21%)、進学しない者(昭和 11 年で 13%)以外が高等小学校へ進学しました(昭和 11 年で 66%)。

また教科については、尋常小学校では一・二年生が修身・国語・算術・唱歌・体操のみ三年以上で図画・理科・裁縫(女子のみ)・国史・地理が順次加わります。高等小学校ではそれらに加えて手工・実業・家事(女子のみ)が加わりました。中学校とは違い、英語が無いのが特徴の一つと言えます。